

HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第21号 2011年4月発行

企業支援：ハウスサポータープロジェクト2011春@タイ

タ イ北部の都市チェンマイ市郊外で、3月14日、全国各地から集まった「JAPAN HOPE BUILDERS」(学生9名、社会人3名)が活動の全日程を終了しました。この活動は昨夏と同様、大和ハウス工業株式会社からの支援をベースに、日本人チームが現地へ赴いて家を建てるという「ジャパンプロジェクト」。チェンマイを含むハビタットのタイ北部エリアでは、昨年、それまで6m×6mの36㎡(10.89坪)であった住居規格(サイズ)を改定、6m×9mの54㎡(16.33坪)の規格を採用することになりました。チームは今回、その一回り大きな家を、ホームオーナーさんや大工さん、ハビタットのスタッフと力を合わせ、チーム一丸となって築き上げました。(事務局・山本真太郎)



ホームオーナー家族と一緒に



ホームオーナーの家

ホームオーナー家族

今 回チームが支援した家族は、Pradithさん一家、Pradithさんの奥さん、お母さん、息子さんの4人で暮らしています。旧家は、一面木板やタン板で覆われ、継ぎ接ぎだらけ。雨期には雨漏りがひどい上、大量に発生する蚊が壁の隙間から家に入ってくるなど、安心して眠ることもできず、健康被害にも悩まされていました。Pradithさんは生まれつき片目が見えませんが、障害のある自分でも家族が安心して暮らせる家を持つことができると信じ、今回、ハビタットハウスの申請を行いました。

建築開始、バケツでつなぐ想い

作業初日、作業は家の基礎づくりからスタート。バケツリレーで、家の床下部分に砂を入れ、埋めていきます。タイの3月はちょうど夏へ入る時期。熱い日差しが照りつける中、バケツに砂を入れる

スコップ係も汗びっしょり。何度も何度もリレーを繰り返して、バケツに想いを注ぎ込みました。2日目は床づくり。前日作った砂の床下に水を含ませ、踏み固めた上に、コンクリートを流し込みます。チームのやる気は大工さんたちも呆れるほど。夜が近づいても黙々と作業を続け、立派な床を完成させました。



手を取り合ってバケツリレー

「家族の未来を守る家に」

3日目からは壁づくりが始まりました。床のセメントが乾くと、コンクリートブロックを積み重ねていきます。積み木や粘土のおもちゃではない、本物の壁づくりに参加者の表情は真剣そのもの。一方、その後方では、ブロックとブロックの接着に必要なセメント作りが行われ、供給を切らさないよう必死でサポートする姿がありました。4日目ともなると、次第に壁も高くなり、積み上げにより神経を使うように。苦戦しながらも、これが家族を守る大切な壁になると、一つ一つ



壁が高くなり、積み上げも慎重に

丁寧に積み上げていきました。5日目、みんなで精魂込めて積み上げた壁は、全面歪みなくきれいに整い、現地の専門家が「さすが日本人。これぞプロの仕事」と評価するほどの出来栄に仕上がりました。

家の完成を祝う「カギの贈呈式(House Dedication Ceremony)」では、Pradithさんが、「やっとこの日を迎えることができました。とても明るい未来が見えていて、なんだか両目が見えるようになったかのようにうれしい」と、抑えきれない感動をいっぱい伝えてくれました。



ハビタット・ハウス完成！
みんなで記念のケーキ

※今夏は、タイに加え、バングラデシュでの活動も予定。詳細はHPIにてお知らせします。

ハビタット・ジャパン、海外支援事業をスタート@スリランカ

スリランカって、どんな国？

スリランカは、日本の南西約7,500km、インドの南東直下にあり、総面積が北海道の8割



ほどという小さな島国です。1796年にイギリス帝国の植民地となり、1948年の半独立（イギリス連邦セイロン自治領）を経て、1972年、共和国として完全独立、国名も「スリ（光り輝く）」、「ランカ（島）」に改められました。自然、民族、歴史、文化が多様に混在する地にあり、スパイシーなカレーに、香り豊かなセイロンティー、美しい海とビーチに、情緒ある遺跡や品質高い宝石など、リゾート地としても有名です。日本との関係も良好、現地の人々も日本に対して友好的な親日国です。正式名称はスリランカ社会民主主義共和国。

北部ジャフナ県：紛争帰還民の再定住支援

スリランカでは、1983年以降、総人口の7割を占め仏教徒が多いシンハラ人と、ヒンドゥー教徒の多いタミル人との間で民族対立が勃発し、内戦へと発展。その表舞台となった北部・東部地域では多くの住民が国内避難民となり、生活を追われました。2009年、スリランカ政府軍の軍事作戦によって内戦が終結、多くの人々が避難民キャンプなどから帰還しています。しかし、ようやく戻った場所は荒廃し、家族とは離れ離れのままで、新たな生活を始めなければならない状況です。急場のぎでつくった家は、わらや朽木、ビニールシートなどを組み合わせただけのもので、雨風を十分に防ぐこともできません。

4月から、(特活) ジャパン・プラットフォームの助成を受け、スリランカの北部と東部で2つの支援事業を開始しました。ハビタット・ジャパンにとって、現地で直接関与するプロジェクトは3度目。今回、現地には3名の日本人スタッフを派遣、ハビタットのスリランカ事務所と連携しながら事業を展開していきます。(事務局・山本真太郎)

今回、ハビタット・ジャパンは、北部ジャフナ県において、国内避難民の生活再建をサポートし、また再定住が円滑に進まないことで内戦状況に逆戻りすることがないように、住居建築を通じた紛争帰還民の再定住支援を行います。

東部バティカロア県：水害被災者への緊急支援

他方、今年1月から2月にかけて、スリランカ東部では、モンスーンによる洪水が発生。全体で125万人が被災しました。ハビタット・ジャパンは、被害の大きかったバティカロア県において、住居修繕キット1,000セットの配布を予定。被災した世帯に対し、6月頃まで緊急シェルターの建築や被災家屋の修繕を支援します。



内戦が終わり、帰還した家族と現在の家(ジャフナ県)

ハビびと

今井 歩 株式会社ダイヤモンド・ビッグ社

みんなハッピーなのが一番！そう笑顔

を咲かせて語るのは、今井歩さん。

今井さんは、海外旅行ガイドブックの老舗として、1979年の創刊以来多くの読者に新鮮な現地情報を提供している『地球の歩き方』に勤務。長年培ってきたノウハウを活かして企画する『地球の歩き方 海外ボランティア』に、2006

年の冊子発行から関わってきた。ハビタットが春と夏に実施する個人参加者向け海外住居建築活動(GV)の同誌掲載にも尽力している。

各プログラムの企画にあたって、今井さんには心がけていることがある。参加のしやすさと、現地の人との触れ合いや社会への貢献を感じられる内容かどうかという点だ。実は、そのこだわりには理由がある。「海外ボランティアの敷居は高く、経験のない私なんか役に立つのか分からなかった」、そう自身の学生時代を振り返る今井さん。その思い出があるからこそ、初めて参加する学生の不安や悩みが理解

でき、みんなが楽しめるような企画を追求することができたと話す。実際、参加者の数は、冊子の発行以来3倍近くに増えた。

今井さんとハビタットとの出会いは2008年。日本全国から集まった参加者が現地の家族やNGOスタッフと共に「建てる」という明確な目標を持って一つになれることに加え、それが家であり、それにもかかわらず、誰でも参加できる点に魅力を感じた。

「プログラムを企画する上で大切なことは、社会貢献と固く考えるよりも、関係するすべての人が喜ぶ顔を思い浮かべられるかどうかということ。誰もがハッピーになれる企画を提供するほうが仕事をする上で何倍も楽しい！」。そう語る彼女のスマイル・ビルドはまだまだ終わらない。(青山学院大学CC・桑田 万優子)

里山長屋暮らし～藤野プロジェクト 竣工式 (2/12・13)



Q. 長屋建設中の苦労話は？

その土地に根ざした建築、自然素材の地産地消、セルフビルドがコンセプトだったので、土壁作りに必要な竹の切出しや、また土にすりこむ「わら」もなるべく自然栽培の田んぼからいただくよう手配して回ったりなど、多くの方々の支えがあつてなんとか形になりました。

Q. 長屋完成時の感想は？

竣工式には数百人の方々が駆けつけてくれました。正直、言葉にならず、いまだにじわ～とした感動に包まれています。ボランティアの皆さんをはじめ、力を貸してくだ

神奈川相模原市藤野町にて昨年4月より支援を続けてきた「里山長屋暮らし～藤野プロジェクト」が、2月、ついに竣工式を迎えました。自然あふれる里山で「持続可能な暮らし」を目指す4家族にとって、長屋生活のスタートとなりました。それから2カ月が経つ現在の様子とプロジェクトについて、家のオーナーの一人、小林一紀さんにお話を伺いました。(事務局)

さった方々への感謝であり、この場所がこれから多くの方々にとって意味をもつてくれる場になるだろうという感激なのかと思っています。

Q. 実際に住んでみての感想は？

共有棟に集って皆で他愛もない話をしていると、心から喜びを感じます。3月に起こった震災後、より一層、仲間が近くにいる、助け合えるという感覚をもって過ごすことができている。このことは、家族にとってとても大きな意味があると感じています。

Q. プロジェクトを通じて

伝えたいメッセージは？

色々な困難がありましたが、日本の伝統

的な建築の知恵、地産地消の家、自然素材、共有棟、どれもが私たちにとって豊かな感覚、喜びをもたらしてくれるものだと感じます。こういった感覚を皆さんにお伝えできたのなら、今回のプロジェクトをやってよかったなと思います。ボランティアの皆さん、完成した建物をぜひ見に来て頂きたいと思っています。本当にありがとうございました！



フェアトレードファッションショー「ハビ☆コレ」開催 @ 東京・原宿 (2/10)

ハビタット・ジャパンの関東学生支部(CC/CClub)7団体によるフェアトレード(FT)ファッションショー「ハビ☆コレ:あなたの一歩で世界は変わる」が2月10日、若者の活気あふれる東京・原宿で開催されました。

フェアトレードは劣悪な労働条件下で働く人に公正な取引に基づく自立を促す支援活動。一方、ハビタットの活動は劣悪な住環境で暮らす家族の自立を促す支援活動。両者に共通するキーワードは「貧困」です。「ハビ☆コレ」は、「世界の貧困問題を知ってもらいたい」、そんな思いから学生支部のメンバーが企

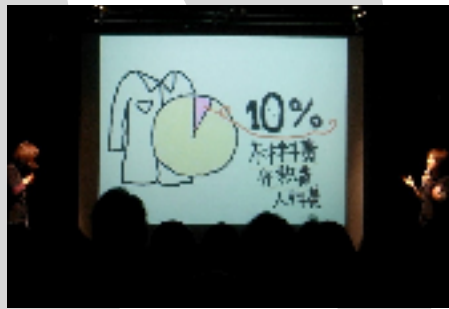
画したファッションショーです。半年以上の準備期間を経て実現した甲斐もあり、会場前には長蛇の列。総勢272人も若者が集まりました。

イベントでは、ファッションショーだけでなく、フェアトレードの説明や国際協力の重要性、その関わり方について学生同士の対談が行われ、国際協力が身近なものであることをアピール。イベントを終えた会場からは「自分でも何かしたい」、「行動を起こしたいですね!」などの感想が聞こえてきました。

企画運営に携わった青山学院大学 SHANTI SHANTI 国際ボランティア愛好

会の代表・尾崎友徳さん(同大学法学部2年)は、「一人一人の力には限界があります。でも、それが束になると大きな可能性になる、そのことを実感しました。今後も、学生にしかできないこと、学生だからできることを考えながら、学生支部みんなで社会に貢献していきたいです」と話してくれました。

多くの方々の協力により関東最大規模となった今回のイベントを通じて、ハビタットが目指す「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」のために、学生たちが持つ大きな力、可能性を感じさせる一日となりました。(事務局)



社会体験学習 @ ハビタット (2/2)

2月2日、東京女学館中学校3年生の生徒5名が、ハビタット・ジャパンの事務局で社会貢献学習を行いました。生徒たちは、昨秋に東京・日比谷公園で行われた国内最大級の国際協力イベント「グローバル・フェスタ」でハビタットの活動に興味を持ち、今回事務局を訪問。ハビタットが世界で行っている住居建築活動について、DVD観賞や活動写真のファイリングを通じて学びを深めました。



5名は、職員からハビタットの活動状況や実際に家を建築する上での苦労について話を聞き、「海外での住居建築ボランティアは、家を必要とする人だけのためではなく自分自身にもプラスになる経験を得られそう」、「将来、自分もぜひ参加してみたい」と感想を述べていました。また、現地の建築活動だけでなく、その現場を支える職員にも興味深々。ハビタットで働くようになったきっかけや仕事をする上でのやりがいなどについて質問し、納得していました。

イマドキの若者に見える生徒たち。「これからいつでもボランティアに来ます!」と力強く語ってくれました。(事務局)

お知らせ!

今春、全国の学生支部(CC/CCLub)19団体から、ハビタットの活動に取り組む200名近くの学生が卒業を迎え、それぞれの新たな道に巣立って行きました。卒業生の一人、静岡文化芸術大学SUAC Habitat for Humanityの有馬望さんは、ハビタットの活動を振り返り次のように語ってくれました。「小さなことでもいいから、自分のできることをやろう。そう思わせてくれたのがハビタットの活動でした。ハビタットの活動を通して、支え合いの精神を育むことができました」。ハビタット・ジャパンでは、ユースプログラムを通し、一人でも多くの学生がハビタットの国内外の活動を通して国際協力の知識を深め、人々とのふれあいを通じて様々な社会経験を得られるようなプログラムの機会を提供しています。(事務局)



寄付・助成金リスト (2011.1.1-3.31)

※東日本大震災被災者支援向けのリストは、別紙をご参照ください。

1/6	JCCハイチ合同募金	976,662
1/25	藤井 信也	5,000
1/31	ユナイテッドビープール(株)	1,073
1/31	一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン	7,895
2/18	(特活) 国際協力NGOセンター	6,357
2/21	大和ハウス工業(株)川越支店	24,575
2/24	関西学院 Eco-Habitat	139,796
3/04	Spring Love 春風	20,000
3/04	Oakwood	33,908
3/08	小林満知子	30,000
3/17	立命館大学 (Rits Habitat)	73,139
3/22	(特活) 国際協力NGOセンター	10,378
3/31	(株)インテージ	50,000
3/31	一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン	1,506

ご支援ありがとうございました。(敬称略・順不同)

ハビビと集会・次回開催のご案内

- 日時: 4月21日(木) 19:30ー
- 場所: Ben's Café(高田馬場)
- トピック: 東日本大震災についての近況報告、スリランカ事業開始報告などを予定

編集後記

3月11日、M9.0という日本史上最大規模の大地震が東北地方を襲いました。大地震の被害に加え、沿岸部を襲った巨大津波により1万3千人以上の方が犠牲となり、今なお1万人4千人の方が行方不明のままです。

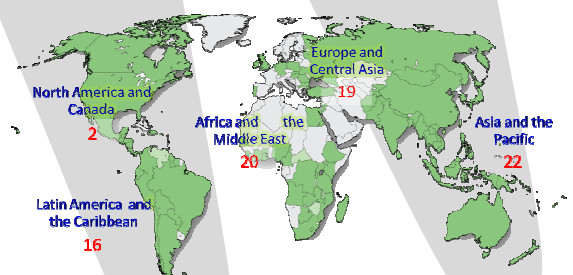
ハビタット・ジャパンでは、一人でも多くの方が安心した暮らしに戻れるよう、今回の震災に対して支援の実施を決定しました。詳しくは本紙の号外をご覧ください。(事務局)



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく100の国と地域で40万軒余の住宅建築支援を行ってきました。そして現在、世界中で21分に1軒のペースで住宅を建てています。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-13-11 CHARI千駄ヶ谷401
Tel: 03-6459-2070 / Fax: 03-6459-2071
URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人: 小田 浩
編集人: 山崎頭太郎、高橋範子、山本真太郎、樋口ゆり子



HFHJ アップデート<号外>

Japan Update Extra Edition

東日本大震災

REUTERS/Aly Song, courtesy Trust.org-Alertnet

■ 国内史上最大最悪の大災害

2011年3月11日、午後2時46分に東北地方太平洋沖で発生したマグニチュード9.0の大地震。地震の大きな揺れに加え、東北地方を中心に太平洋沿岸部の広い範囲で大津波が発生、未曾有の大被害となりました。

震災から1カ月が経過した4月11日時点では、大地震と大津波による犠牲者数は1万3,116名に上り、いまだ1万4,377名

の方が行方不明のまま(4月11日警察庁発表)となっています。また、福島県では、福島原子力発電所で発生した放射能漏れ事故による二次災害により、原発周辺の住民は、それぞれの家を後に避難生活を余儀なくされています。

東日本大震災による避難者数は、18都道府県で、約14万7,000名にも上っています。

■ ハビタット・ジャパンの支援活動

災 害から立ち直ろうとする人々にとって真っ先に必要なもの、それは人間らしい生活をするための基礎となる家、そしてコミュニティ(生活空間)です。

現在、ハビタット・ジャパンでは、宮城県、岩手県、福島県など被災各地で調査を行っています。宮城県、岩手県に



福島県いわき市新舞子ビーチ周辺

については依然として緊急支援の段階にあるものの、支援の中心は次第に住まいの問題に移ってくることが予想されます。

その際、課題となるのが、がれきの撤去や汚泥の除去などです。今回の災害でケガや病気に見舞われた方あるいはお年寄りの方には困難の伴う作業であり、また自力で作業できる方にとっても、すべての家財道具が失われた中、作業をする道具を手に入れることもできません。ハビタット・ジャパンでは、国内外のボランティアを動員して、がれき撤去や清掃作業、財産の分別作業を行うとともに、それに必要なクリーンアップキット(作業道具セット)の配布などを検討しています。



REUTERS/Kim Kyung Hoon, courtesy

また、3月23日より仮設住宅の建設が始まりましたが、問題は山積しています。将来的には、住宅の問題についても、物資提供や生活環境改善、お年寄りの孤独死や子どもに対するケアなど、仮設住宅地におけるコミュニティ支援を含む支援の可能性を模索しています。

※今後の支援詳細はHPにてお知らせしていく予定です。そちらも併せてご覧ください。

物資支援

3月30日、欧州連合(EU)と連携して、毛布1,000枚を栃木県消防学校へ届けました。栃木県は、福島県からの避難者2,587名を含む計2,689名(3月25日栃木県発表)が避難所生活を余儀なくされています。当日の物資搬入作業は、EU市民保護メカニズム(European Civil Protection Mechanism:大規模災害時の救援活動を支援・調整する欧州連合の組織)とハビタット・ジャパンの立ち会いの下で行われました。1,000枚

の毛布は、栃木県消防学校から栃木市の避難所(大平少年自然の家)、鹿沼市の避難所(鹿沼総合体育館)へ配布、海を越えて被災者の心と身体を温めています。また、4月6日には、宮城県に対して、テント14張と寝袋112個の提供を行いました。



栃木県消防学校で毛布を配布

HFHJ アップデート<号外>

Japan Update Special Edition

一人一人の気持ちが大きき力に。東北に力を、みんなの力を。

ハビタット・ジャパンでは、東日本大震災の被災者支援として、支援募金の受付けを行っています。

寄せられた支援募金は、公正・適正に被災者支援のための活動に用いられます。

皆様のご協力をお願いいたします。

■金融機関からの募金

振込先：三菱東京UFJ銀行 新宿西支店

口座番号：普通 0105112

口座名義：(トクヒ)ハビタット フォー ヒューマニティ ジャパン

※ 銀行振込の場合には、お振込手続きが完了しましたら、お名前やご連絡先、東日本大震災被災者支援に対する支援募金である旨をハビタット・ジャパン事務局までご連絡ください。ご連絡がない場合、一般寄付としてお取り扱いさせて頂く場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◇ 領収証が必要な場合は、必ず「領収証：要」と通信欄にご記入ください。

支援募金者リスト（- 2011.3.31）

東日本大震災に関して皆さまからいただいたご支援は、ハビタット・ジャパンが実施する被災者支援事業に公正・適正に用いられます。ご支援ありがとうございました。（敬称略・順不同）

3/16	辻村 朋大	1,000	3/22	新井 ルミ子	1,000
3/16	本庄 彩	20,000	3/22	山本 ひとみ	10,000
3/17	タム 順子	10,000	3/22	大和ハウス工業(株)川越支店	9,500
3/18	京都外国語大学 (Kyoto Gaidai Habitat)	255,627	3/22	竹中 聡志	50,000
3/17	仁科 友祐	10,000	3/25	鹿野 慎介	5,000
3/17	前後 薫	100,000	3/28	川邊 悠平	10,000
3/17	湯泉 志緒	5,000	3/29	牧野 けい	30,000
3/22	井田 昌彦	10,000	3/29	神戸市外国語大学 (Kobe Gaidai Habitat)	62,083
3/22	エイクマ ヒロミ	5,000	3/30	Asia Pulp & Paper Group	100,000,000
3/22	田中 順子	10,000	3/30	中瀬 ケイコ	50,000
3/23	小澤 宏	5,000	3/31	飯田 恵美	5,000